

龍谷顕真会会報

記念講演

もくじ

「科学技術の進歩と地方行政」 岡山理科大学教授 浄原 法蔵	2～7
平成2年度活動報告	7～10
総会、世話人会報告・事務局から	11

平成2年度総会フォトニュース



◀ 藤音総長の挨拶



▲ 大会議室での開会式



◀ 代表世話人の挨拶



▲ 閉会式で酒生総務



▲ 懇親会には佐々木総務も



▲ 話がはずみました

今春は統一地方選挙。告示までにはまだ間があっても実質的な選挙戦は年明けから始まっている。当選を手中にするまでは、花見もおあずけ。会員諸兄のご健闘を念ずるばかりである。

龍谷顕真会が設立された時の会員数は八十人近かった。十六年目の現在は四十五人。会員減少の原因としては、寺が忙しくなったことがあげられるが、立候補の調整がつかなかった場合、僧侶に「とりあえずご住職さん出て下さい」とワンポイントリリーフを頼むケースが多いことも一因。二期目を目ざそうとしても「ご住職は本業へ」となる。

こうした中で、僧侶が何期も首長、議員を続けるのは、なみたいていのことではない。期数を重ねた会員の方は「僧侶だからこそ」の期待を受けてこられたものであろう。かつて真宗僧侶は、地方自治のリーダー役。多数の立候補を期待。そしてご健闘を。

記念講演

科学技術の進歩と地方行政

岡山理科大学教授 浄原法蔵

一、はじめに

私は岡山県の東部にあたる備前市にありま
す。浄光寺に生まれ、第十九代目の住職を致し
ております。寺に生まれながら、高校時代か
ら科学に興味を持ち、広島大学工学部に進み
ました。工学部と申ししましてもいろんな分野
がありまして、私が選んだ道は「かび」「酵
母」とか「バクテリア」に代表される微生物
の生命現象を解明し、人間社会に応用しよう
とする、「応用微生物学」でした。大学院で、
研究した後、東京大学農学部で農芸化学科で、



遺伝子の研究をして学位を受け、現在岡山理
科大学に勤めております。

大学での研究について、少し話させて戴き
ますと、研究活動とはただ単に「象牙の塔で
の研究」だけではありません。研究者の仕事
は研究成果を論文に書いたり、学会で発表し
たりすることも含まれます。特に、最近は大
だ専門分野への報告だけでなく、専門外の人
たちあるいは一般市民にも伝えることが求め
られます。すなわち、研究者が得た新しい結
果および考え方は、全ての人々共有のもので
なければなりません。そのことは、み教えの
伝道と同じと思っております。難しいことと
すが、「自己が求めること」と「伝えて行く
こと」が一体となった「自利利他行」を果た
さねばなりません。講演を頼まれますが、そ
のような思いで出かけております。

二、「話す」と「語る」

講演依頼の際、「お話をして戴きたい」と
よく言われますが、いつも「話は手が手

講師略歴

浄原法蔵（きよはら・ほうぞう）
昭和十七年岡山県生まれ。広島大学大学院
修士課程工学研究科修了。東京大学農学部
留学。岡山理科大学工学部教授。専門は、
分子微生物学。兵庫教区・岡山南組・浄光
寺住職。

す」と答えております。話が下手なこともあ
りますが、「話す」と言うのは「舌で言葉を
放つ」ことだと聞いたことがあります。消え
行く言葉をポンポンと放っていくことに、む
なしさを感じるのです。ですから私は、「お
話はできない」と言う立場をとらして戴いて
おります。「それではあなたは何をするので
すか」と尋ねられますと、「私は語らせて戴
きます」と答えております。

「語る」とは「吾を言うなり」。所詮、人
間は他の人のことは解りません。あくまで自
分で自分を題材にして、自分がどのように生
きていくのか、自分の中にある「人間の悲し
さ」「人間の醜さ」を人の前に吐き出し、共
に語り合うことが大切と戴いております。し
たがいまして、今日お話させて戴くことは、
自分のことばかりかも知れませんが、その点
をお許し願いたいと思います。

前置きが長くなりましたが、今日お集まり
の方は地方の政治あるいは行政に係わられて
いる方と聞いております。今日は「地方行政

の中の科学技術」、「科学と仏教」、等を中心についてお話させて戴こうと思っております。

三、地方の活性化

今朝、岡山駅から新幹線に乗りますと、人がたいへん多いのに驚きました。日本の経済状態が活発なので人の移動が多いのでしょうか。人間と情報が中央から地方へ、地方から中央へと飛びかっていますが、日本の社会はどうしても東京中心の一極集中型から抜け出せないようです。大学で就職委員長をしています。求人にこられる企業の本社はほとんど東京です。このことは、考え方によっては、非常に封建的な社会構造ではないかと思えます。東京に行くことを「上る」と言い、東京から地方に行くことを「下る」と言います。「上って、戴きに行く」ような封建的思考、社会体制と社会機構が残っているように思えます。今盛んに地方の活性化が叫ばれています。しかし、その活性化は全国的にワンパターンであることはご存知の通りです。一番目が企業誘致、二番が観光開発、三番がゴルフ場建設ですね。どこの市町村も同じことをして、活性化のために特徴を出そうとしたことが、逆に特徴をなくしてしまうのです。かえって、何もしない方が特徴があるような現状です。一体何をしたら良いのか、迷っているように

思えます。

四、地方の技術革新と人材育成

私は、他の県や市町村のことは、余り具体的に知りませんので、岡山県の例を述べさせていただきます。岡山県も例に漏れず、前の三つを一生懸命に実行していますが、二年前に完成した瀬戸大橋を目玉に、何かやって行こうと言う動きがあります。まず、産業の活性化では、行政だけが考えても限界があり、絵に書いたボタモチに終わる場合が多いために、産・学・官が一体となつて、プロジェクトを組んだり、お互いの人的交流をはかったり、将来のあり方をサゼスションしたり、現状解析しなければならぬと言うことで、「岡山科学フォーラム」を結成しています。私もその幹事をしていますが、このフォーラム自体は、人的交流を中心に、講演会などを開いております。そのメンバーが三分野に分かれて、現代の先端技術産業の研究の促進を計っております。

その一つは、「バイオテクノロジー分野」です。県下には、岡山大学、岡山理科大学と川崎医科大学の理系大学があります。企業には、抗癌剤の開発で有名な林原生物化学研究所などがありますし、県自身も農業試験所とか岡山県技術センターなどを持っています。二番目が、メカトロ分野で、ロボットなど

で知られていますように、エレクトロニクスと機械を結合した分野の研究開発です。三番目は、新素材分野です。岡山県は、備前焼き、ろう石、耐火レンガなどの産業が古くからあり、よい土が産出します。その関係から、セラミックスの研究を進めています。

この岡山県の例は、全国的に同じと思いますが、日本の技術のレベルは世界でも高い水準にあります。これからの工業国には先端的技術の一層の革新を欠くことはできず、地方産業も対応していかなければならないことはご承知の通りです。ただその時、中央で開発された技術を導入するのではなく、地方独自で特色ある技術を開発する意欲を持たねばなりません。余り大きなことを考えず、身近なことができると思います。そのためには、人材の育成が一番大切でしょう。その場限りのことを考えず、長期的にプロジェクトを組む忍耐力を持たねばなりません。今、地方行政に求められるのは、人材育成だと思います。若い人を集める方策はいろいろと考えられています。地方行政が長期的な人材育成を考えている例は極めて少ないと言えましょう。

五、地方の文化

どの地方も観光施設を整え、レジャー施設を作って、多くの人を誘致して、観光収入を増やして、経済の活性化を計ろうとしています。

す。岡山県も瀬戸大橋の完成で観光収入が増えると考えていたようですが、通行料が高く、考えていたよりも通行量は少ないようです。また、シーサイドの開発、デンマークからのチボリ公園の誘致などが進められています。しかし、ややもすると古い文化を破壊している場合が多いようです。いつも思うのですが、その点ヨーロッパ諸国のやり方は賢明なように思えます。古いものが多く残された風景を見ると、その国のアイデンティティーを知ります。その地方その地方の文化を大切に伝えて行くことが、特色ある地方となると思われます。高額な絵画を購入して、美術館を作るような目先だけの文化でよいのでしょうか。

六、地方が自然を守る

今どうしてこんなにもゴルフ場が必要なのでしょう。岡山市の中心に旭川と言う大きな川が流れています。江戸時代にその川が氾濫した時にだけ流す川が作られています。平生は全く水がながれてなく、現在ではスキが生えたり、テニスコートが作られたりして市民の憩いの場となっています。また、遺跡も発掘されています。今、その河原にゴルフ場を作る計画があります。反対運動も起きています。また、私の住んでいる備前市でも第三セクター方式でゴルフ場を建設しています。私はよくジェット機に乗りますが、我が日本

の地を上空から眺めると、森林は伐採され、道路建設とゴルフ場建設のために、傷だらけとなった姿は実に痛々しい感じがします。私の身体は実に十四箇所も手術していますが、最も新しい胆嚢の手術の際に、これ以上身体に傷を付けることは亡き母に申し訳ないような思いになったものです。人間の金と遊びのために、山を崩し、海を埋める。ゴルフが流行らなくなった時には、ゴルフ場はどうするのでしょうか。破壊した自然を元に返すことはできないでしょう。地方の行政が自然を守らずして、誰が自然を守ることができましょう。その付けがすでに回ってきているように思えます。

七、現代全体主義

これまでにお話したのは、岡山県の例ですが、お聞きになって、お分かりのように、ここにおられる皆さんの地方でも、全くと言ってよいほど同じではないでしょうか。それほど画一化された発想と実行しかできない社会となっているのです。悪く言えば「物まね行政」「他がするから自分もする」、いわば「赤信号、みんなで渡れば恐くない」と言われても仕方ないのではないのでしょうか。これは地方の行政だけに責任があるとは言えません。時流に沿ったものでなければ、予算がとれないような国のやり方がいけばん問題と思

います。しかし、地方は地方の発想を持つことが何より大切なことも事実です。

小中学での「いじめの問題」も同じだと思います。大学生が独自の発想とか哲学とか思想を持てないのも同じでしょう。国際政治での日本の行動も同じでしょう。全て主体性がなく、「みんながする通りのことをする」。今、日本国民一億二千万人全員は恐いほど同じ方向に顔を向けているように見えます。政治も、企業戦略も、教育も、家庭生活も、服装に至るまで。

私は、このような傾向を「現代全体主義」と呼んでいます。主体性なく、時代に流されて行くことから、「流れの全体主義」とも呼んでいます。また、この傾向から生じた結果について誰も責任をとらないで、時代とか流行とかトレンドのせいにするところから「無責任全体主義」とも呼んでいます。これは人間社会と意識を統括的あるいはシステムの操作する結果、全体としては特有の性質・機能あるいは個人）の特性は無視されるためと考えられます。このような社会では、個人が生きて甲斐を喪失し、感動を失い、簡単に操作されてしまします。実に恐ろしい社会と言わねばなりません。ある意味では、戦前の軍国全体主義よりも恐ろしいかも知れません。現代ほど、自由を失った時代はないかも知れませ

ん。他人と違った生き方を選ぶことができるでしょう。

八、拝金主義、唯金宗教

それでは、現代の人間社会意識システムを支配しているものは何でしょうか。芸術、文芸、哲学、宗教など人間意識を目覚めさせるものは、無視し、消滅しようとしている。一億二千万人が顔を向けている方向は、何でしょうか。それは、全て「経済、いわゆるお金」



なのです。金に関係ないものは、全て無意味なものなのです。戦後の復興時の意識がそのまま残存しているのが、日本なのでしょう。世界でも、一、二位を争う経済大国になった日本人は、この拝金主義思想を持って、唯金宗教を深く信じて、自信を持って生きているのでしよう。自然を食いつぶし、文化を踏みにじって、失われ変わり行く価値しかない「一枚の紙切れ」を大切に生きている姿は、滑稽な何物でもありません。

九、誤解された科学

「このような現代社会を作ったのは、科学だ」、と良く聞きます。きょうの演題も「科学の進歩と地方行政」となっていました。これも少しおかしいように思われます。それは、私は尋ねたい。「科学とはなんですか?」と。ふつうの人は答えることはできないのです。いや、科学者自身も余り考えてない人多いのではないのでしょうか。特に、自然科学とは何でしょう。一般的には、「自然現象を実証的あるいは論理的に明かにする学問分野」とでも、言えるでしょう。それに付随して明かにされた普遍性を、応用とか利用すること、科学では大きな役割でしょう。また、解明するための方法あるいは応用技術(科学技術)も人間生活を向上させるでしょう。しかし、今、「科学」と呼んでいるのは、ほとんど「科学技術」を指している場合が多いのです。科学≠科学技術ではありません。科学は誤解されているのです。科学とは、「当たり前前」のことを当たり前と知る学問」なのだと理解したいものです。自然科学は、生命から宇宙に至る自然の摂理を正しく理解する学問分野であるはずなのに、人間は人間の都合のためだけに利用しているのではないのでしょうか。科学技術だけに目を奪われず、科学そのものを理解した現代社会へと成長することが大切だと思います。そのことはこれからの政治家や行政者にも求められるでしょう。

十、進化が求められる仏教

何故、このような拝金的な社会になってしまったのでしょうか。いろんな原因があると思いますが、一つには「こころ」を大切にできなかったことが大きいのではないのでしょうか。今、科学者の中には、現在の科学のあり方に疑問を持ち、憂いている人も多くいます。私も、科学者の集いで、「科学者自身がもっと変わらなければならない。科学以外の分野にも目を向けねばならない」と訴えております。真の宗教を求めている科学者も多数おられます。しかし、宗教家、特に僧侶は、現代の科学的思考の社会に対応すべく努力を払っているのでしょうか。相変わらず、儀礼と加持祈禱による職業としての宗教活動しかしてい

ないように見られています。仏教そのものよりも、僧侶が信用されていけないのでしょうか。

人間は進化した動物と言われます。「進化」とは、現在の環境に適応できるように変化してきた過程を呼ぶのでしょうか。そもそも人間を含めて生物は、「環境との係わり合い」でのみ生存し得るのです。今の仏教は、古い時代の人へ伝道するための方便がそのまま目的になってしまっていないでしょうか。布教使の中には、「科学が世を乱した」と言わんばかりに、科学を否定する方がおられます。科学の恩恵にあずかりながら、しかも、「科学とは何か」と考えることなく言われます。

それでは、現代の人たちに受け入れてもらえないのでしょうか。そのことが、疑似宗教を発生させる要因となっていないでしょうか。仏教、とりわけ浄土真宗は「自然の摂理」に正しく乗った伝道をすべきと、日頃思っております。即ち、現代の環境に適応した仏教へと進化することが必要でありましょう。

十一、助け合ういのち

人間を含めて生物を、二つのグループに分けることができます。その一つは、独立栄養生物と呼ばれます。これは、生きるために有機物（生物が作った物）を必要としません。炭酸ガスと水と微量の無機物があれば、日光

のエネルギーで生育できます。典型的なものが、植物です。他の生物から独立して生きています。炭酸ガスを使って、酸素を大気に出します。もう一つのグループは、従属（あるいは他家）栄養生物と言って、他の生物なしには生きていくことができません。その代表が人間です。大気中の酸素を使って、他の生物が作った有機物を自分の生育に必要な物質に変換したり、それを燃やして炭酸ガスにして、化学的なエネルギーを得ています。即ち、独立栄養生物が炭酸ガスを消費し、酸素と有機物を作る。従属栄養生物がその酸素と有機物を消費して、炭酸ガスを発生する。

このように、地球上では生物同士が助け合っていて、お互いに生存し得るのです。どちらがいないくても生存できません。地球自身が「生命体」なのです。生物が作ったものは、必ず生物が分解する。しかし、生物が作らないようなものは、生物は分解除去できません。今、問題になっていきますフロンは人間が合成したものですから、分解されず、大気に蒸発して、オゾン層を破壊するのです。また、PCBも人工合成物ですので、自然に生物によって分解され難く、土壌や河川水に残ります。これを食べた魚を人間が食べますと、いろんな障害が出てきます。このように、自然摂理を無視した人間の行動が自然を汚染し、生物全体に影響を与え、最終的には人間自身が被害を

被らなければならぬのです。生物は地球の微妙なバランスの上に生きています。そのバランスを人間が破壊しようとしていることをもっと自覚しなければなりません。

人間同士が助け合うことはもとより、人間と他の生物との助け合いこそ大切なのです。それには、他の「いのち」のアイデンティティを認める姿勢がもっとも必要と思います。特に、経済は相対的なものです。他を隷属化しない限り、自己だけの繁栄はあり得ません。「他なくして、自なく、他を生かすことによりて、自が生かされる」とを忘れてはいないでしょうか。

生物の中で、人間はそれほど特別な生物ではありません。「うぬぼれる」ことができません。人を大切にする行政、政治、教育をするには、他の生物をも、自然をも大切にする「こころ」が要求されるでしょう。現代はソフットの時代かも知れません。しかし、人間が生きているということは、ハードなものであることとでなければならぬと思います。やがては、ハードな生き方が大切と気づく時代が来るでしょう。いや、もうそんな時代に入っているのかも知れません。

十二、おわりに

経済第一主義、拝金主義のために、利用してきた科学技術の方向を変えたいものです。

日本の科学技術は、みなさんが思っている以上に発展しています。これからも、益々技術革新が行われるでしょう。しかし、この技術は私だけのもの、人間だけのものではあつてはなりません。何でもかんでも切る包丁でなく、そのすばらしい包丁で、心暖まる料理を作り

たいものです。中央や大企業の科学技術は冷たいものです。地方こそ、科学技術の暖かい使い方ができるものと思います。それには、視線の高さを変える必要があるでしょう。いつも同じ高さから物を見ないで、少し背をかがめて、低い位置から見れば、見えないものが見えたり、また今までとは違って見えるものです。

政治も、行政も、科学者も、教育者も、同じ高さから同じ方向を見ないで、方向を変えることが人類と地球を救うでしょう。いや、自分自身を豊かにするでしょう。人間の行動と生き甲斐を支配するのは、「こころ」であります。その意味から、私達自らが「よろこぶ」ことのできる人間になり、社会を築かねばなりません。そのためには、浄土真宗の私達は自らお念仏をよるこぶ人間に育てられたものです。それを政治・行政に反映して戴きたいものです。

今日は、とりとめもないお話となつてしまいましたが、皆様方は重要な役割を果たされている方ばかりでございます。どうか、今だ

けを満足させるものではない、子々孫々を見渡した広いご見識を広めて戴きたく存じます。みなさまのご健康とご活躍をお願いし、最後に、「一隅を照らす」の言葉をお渡しして、

終わらせて戴きます。

ありがとうございました。

合 掌

平成二年度 活動報告

会員四十五人のうち二十六人から報告書の提出があつた。

- ① 所属委員会
- ② 本年度取り組んでいる事柄
- ③ 今後取り組みたい課題
- ④ 僧侶の首長、議員として特に留意していること。

桜田 正弘 北海道 北見市議 5期
北海道・北見東・本覚寺衆徒

- ① 建設企業常任委員会
- ② 教育の振興と青少年の健全育成事業
- ③ なし
- ④ 僧侶の名に恥じない選挙活動をすること

柴田 薫心 北海道 札幌市議 3期
北海道・札幌・宝流寺住職

- ① 建設委員会
- ② 用途変更問題

- ③ ・ホワイトドーム（全天候スタジアム）
・交通問題
- ④ 非僧非俗の立場

花本 肇正 富山県 大島町議 3期
高岡・射水・称念寺住職

- ① 総務常任委員会
- ② ・地域の活性化について
・道路整備と交通安全対策
・特産物と一村一品運動について
- ③ ・新総合計画
・駅周辺整備計画
- ④ 身体障害者協会活動の協力と住民との交流

中村 幸教 石川県議 4期
石川・島崎山・光徳寺衆徒

- ① 土木企業委員会
- ② 美しい自然環境をまもり、明るい社会を

目指しての都市計画の実現

③ 外庄という嵐の中に苦悩を続ける農業が産業として生き残ること

④ 親鸞聖人の教えを徹底普及し、宗門の僧であることを自覚、地方自治を通じて教化に徹する

嶋田 政憲 福井県 勝山市議 2期
福井・福井・本覚寺衆徒

① 建設常任委員会

② 中部縦貫自動車道の地元対策と関係行政省庁との仲介

③ 市総合振興計画の見直しについて

④ 過疎地域の振興対策

⑤ 心の豊かな人間づくり

⑥ 議員としての行動、言行について

⑦ 教育費の問題について

山田 真澄 三重県 東員町議 8期
東海・員弁・浄源寺住職

① 教育民生常任委員会、広報委員会

② 広報活動の充実

③ 下水道事業の地域へのPR

④ 総合グラウンドの建設

⑤ 『議員だより』が2年連続全国コンクール佳作に入賞。より上位入賞を目指したい

⑥ 下水道事業のための基金の積み立てを

増やすための町財政の点検

④ なし

安藤 智純 三重県 尾鷲市議 2期
東海・勢南・光円寺住職

① 総務常任委員会、総合開発特別委員会

② 地方自治の財政問題（特別交付金とのかわり）

③ 教育、福祉、過疎の課題とリゾート及びふるさと創生諸事業とのかわり

④ 広義としての生活環境について

⑤ 市政の調和ある充実、施設の検討

⑥ 市政上、自然・生命・資源に対する敬虔な人間性創造の模索

⑦ いま、改めて基本的人権の意識をふかめることと政教分離について

⑧ 自然法爾の中に生かされてある自身を、つねに「己が分を思量せよ」との、

⑨ 先祖の内実を大切にと考えている

⑩ 信巻「慙は内に自ら羞恥す、愧は発露して人に向かう」を言い聞かせつつ…

北川 真道 滋賀県 秦荘町長 1期
滋賀・愛知上・浄甫寺住職

① 高齢者福祉

② 生涯学習

③ 地域の連帯

④ 歴史文化の振興

④ 地域住民による支え合う福祉の推進

※西殿、和田の両氏は、連名で報告書を提出

西殿 香連 和歌山市議 8期
和歌山・和歌山・西正寺住職

① 経済企業委員会

和田 秀教 和歌山市議 4期
和歌山・和歌山北・正光寺衆徒

① 建設消防委員会

② 大阪よりの道路整備（第二阪和・近畿自動車道等）

③ コスモパーク加太、マリナーシティの早期完成

④ 市内主要11計画路線の早期整備

⑤ ②に同じ

⑥ 宗教心を基本に行政を行う

藤沢 大紀 兵庫県 香住町議 5期
兵庫・城崎・光永寺住職

① 文教民生常任委員会

② 下水処理（公共下水）施設実施について

③ 教育施設の整備について

④ 公平

経谷 隆道 兵庫県 南光町議 6期
兵庫・佐用・西蓮寺住職

① 経済土木常任委員会

② 総合スポーツ公園の建設

・合併処理浄化槽の導入

・町議会二〇〇回記念式典の挙行、記念誌の発行

③ 二十一世紀を展望した「町づくり計画」の策定

・町史編纂と民族資料館の建設

・ふるさと創生（一億円）事業の実施

・在宅老人のケアシステムを充実する緊急情報システムの確立

④ 中立、公正を旨とし、派閥に加わらない

・先祖伝来の山林、田畑を企業に売ること

・とに慎重を期すよう指導している

・迷信の打破、地鎮祭の一考を促す

・戦没者追悼会を仏式で行うこと

松元 顕正 島根県 仁摩町議 3期
山陰・仁摩・松原寺住職

① 総務文教委員会

② なし

③ なし

④ 僧侶としての自覚を常に持つこと

竺川 紹隆 島根県 金城町議 2期
山陰・福屋・浄光寺住職

① 経済委員会

② 高齢化対策の長期計画

・民間保育所の週休対策

③ 地域開発

④ 政教分離の問題

的場 利健 島根県 江津市議 1期
山陰・江津・西楽寺住職

② なし

③ よりよい高齢者社会の実現

④ 公平、平等

大前 勝乗 香川県 坂出市議 5期
四州・飯山北・善光寺住職

① 総務委員会、鉄道高架促進特別委員会

坂出市の南北交通を大きく阻害しているJR予讃本線の鉄道高架事業に既に着手し、現在用地買収等に当たっているが、この円滑な実施いかんが全体事業の早期完了につながるものであり、これらの推進等に積極的に協力している

瀬戸大橋開通後、新しい四国の玄関ともなってきた坂出駅北口は、鉄道高架事業等の進展していく中で、都市機能の整備、商業環境の改善等による個性と魅力にあふれたまちづくりが急務となっております

坂出駅北口市街地再開発に取り組んでいきたい

④ なし

藤谷 光信 山口県 岩国市議 4期
山口・岩国・教蓮寺住職

① 教育民生常任委員会

② 教育の充実

③ 文化の新興

・市制施行五十周年イベントの成功

・若者定住政策、地域の活性化

・国際交流を深めることによる教育、文化の振興

・観光資源の開発

・政治家としての品位をうしなわないこと

・政治の信頼を回復すること

御園生邦昭 山口県 徳山市議 3期
山口・都濃西・宝性寺住職

① 総務委員会

② なし

③ なし

④ なし

川越 証真 山口県 美祢市議 5期
山口・美祢西・西音寺住職

① 教育福祉委員会

② 教育問題

・企業誘致

・人口の流出防止

③ 生活環境の整備（下水道）

- ・若者に魅力ある町づくり
- ・人口の増加
- ④ 心(いのち)を大切にする社会教育(生涯学習)

秋里 勝道 山口県 美東町議 2期
山口・美祢東・明楽寺住職

- ① 総務委員会
- ② ふるさと創生
- ③ 悪習慣を取り除く事に努力(地鎮祭)
- ④ 真宗僧侶としての言葉に注意する

久雷 武士 福岡県 方城町議 5期
北豊・田川中・高源寺住職

- ① 総務委員会
- ② 議会制民主主義
- ③ 財政再建
- ④ 仏意を体して行動しているか

流 道丸 大分県 野津町議 4期
大分・大野・尊形寺前住

- ① 産業委員会
- ② なし
- ③ なし
- ④ なし

衛藤 龍天 大分県 久住町長 2期
大分・岡・安照寺住職

- ② 農業土地基盤整備の推進
- ・別府くじゅうリゾート指定に伴う諸事業
- ③ 町中央公民館の建設による町文化の向上
- ・リゾート利用者と町民の産業、文化の交流
- ④ 特に宗教色を出すことはしない
- ・浄土真宗僧侶としての信念に基本的に背反する事業又は行動はとらない

國東 利行 大分県 宇佐市議 1期
大分・宇佐・極楽寺住職

- ① 文教社会委員会
- ② 教育費の父母負担の軽減
- ③ 市役所機構に文化課の設置
- ・教育問題と文化財保護
- ④ 福祉問題
- ・福祉問題
- ・福祉問題

前原 弾邵 熊本県 深田村長 3期
熊本・球磨・善正寺住職

- ② カントリーパーク建設事業
- ・有機農業
- ・企業誘致
- ③ 過疎対策

- ④ 農業の振興
- ・話し合いの政治
- ・福祉活動と寺院の連携をもたせること

尾前 新了 宮崎県 椎葉村議 3期
宮崎・椎葉・浄行寺住職

- ① 総務常任委員会
- ② 観光基本計画(5カ年)
- ③ リゾート開発(観光産業)
- ・ソフト事業として、温泉、鍾乳洞の発掘
- ④ 言動、和

あれこれ

湾岸戦争の主役は、ハイテクを満載した近代兵器だった。ミサイル同士がぶつかり爆発するさまは、まさにテレビゲーム。ついついテレビで壮大なショーを見ているような気分になってしまう。だが、現実にはなまやさしいものではない。たくさんの人たちがおびえ、傷つき、死んでいるのだ。

戦争の当事者の双方とも「正義は我らにある」と声高に叫んでいるが、その背景に石油をめぐる利権、民族エゴ、それに宗教が複雑にからんでいる。人間のもつ我執の深さ、悲しさに思いをいたさずにはおれない。

いかなる戦いであっても「正義はない」というのが仏教者の立場である。「聖戦」の歴史もない。大経の「兵戈無用」こそ我われの願いとする世界。ともすれば軍事評論家になりがちな我々だが、宗祖の「世の中安穩なれ」のお心に立って戦争を見すえていきたい。

平成二年度 総会報告

一、日時 平成二年五月二十四日(金)
午前九時三十分から午後二時

まで

二、場所 宗務総合庁舎会議室

三、日程 ①開会式 ②総会 ③講演

④座談会

四、審議内容

①議長選出 花木肇正 富山県大島町議

②平成元年度事業報告 (承認)

③平成元年度決算報告 (承認)

④平成二年度事業計画案 (可決)

⑤平成二年度予算案 (可決)

⑥会計監査員の改選

世話人と会計監査員の改選の時期をあわせるため、本年度に限り特例としてその任期を一年とすることを了承し、改選に移る。

山田真澄(三重県 東員町議)

永原智徳(和歌山県 由良町議)

⑦その他

イ、賛助会員の取り扱いについて

○会員名簿への登録、会報の発送はしない。

○規約の改正も必要となるため、次

回の世話人会で改正案を作成し、総会に提案する。

ロ、新規会員の入会促進について

○該当者の把握を適確にする

○該当者に対して積極的に入会要請を行う。

平成二年度 世話人会報告

一、日時 平成二年十一月二十九日(金)

午後三時から午後四時まで

二、場所 宗務総合庁舎会議室六

三、会議内容

①平成二年度会計中間報告

②平成三年度事業計画について

総会は六月四日、五日、六日頃に開催する。

③世話人、監査員の改選について

④規約改正について

事務局より改正案を提示、了承。総会に改正案を提案する。

⑤その他

統一地方選挙実施について

事務局から

会費納入のご依頼

平成二年度、さらに昭和六十四年度以降の会費を未納の方は、事務局宛ご送付下さいませようお願いします。なお、不明な点、確認などありましたら、事務局までお問い合わせ下さい。振り込み先は次の通りです。

三和銀行 京都駅前支店

普通口座 七〇一五七

龍谷顕真会 代表 中山知見

会員加入促進のご依頼

地方自治体の首長、議員をつとめておられる僧侶で、本会にまだ加入していない方をご存知でしたら、事務局までご一報下さいませようお願いします。

『会報』第十号の発行が大変おくれましたこと、深くお詫びいたします。

〒六〇〇 京都市下京区堀川通花屋町

浄土真宗本願寺派 総局公室(広報)内

龍谷 顕真会 事務局

☎〇七五(三七一)五一八一

『龍谷顕真会報』(第10号) 平成三年(一九九二)三月十一日発行 編集・発行 浄土真宗本願寺派 総局公室(広報)内 龍谷顕真会事務局